

もみじ

—広島山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 令和 4 年度総会 (5/14 ホテルチュールヒ東方 2001) 報告
2. 第 29 回比婆山国際スカイラン (5/29) 報告
3. 登山教室 (5/20~22 ニツ岳・赤石山) 報告
4. クライミングスクール (5/15 三倉岳 ABC フェース 周辺) 報告
5. ありんこチーム活動 (5/14~15 赤石山系) 報告
6. 雲月山山焼き (4/9) 報告
7. 岳連短信 (寄贈御礼、6 月の行事予定)

1. 令和 4 年度定時総会報告

(事務局 西部 伸也)

日時: 5/14(土) 15:00~16:00

場所: ホテルチュールヒ東方 2001

出席者 21 名 (広島山岳会・横山正雄、広島山稜会・榎田繁、福山山岳会・原田繁紀、広島県庁山の会・松井秀樹、広島大学山の会(理事/副会長)・後藤裕司、タンネンクラブ・尾道憲二、日本山岳会広島支部・森戸隆男、広島三峰会・小方重明、自然と文学愛好会広島/個人会員(理事長)・豊田和司、個人会員・錦織宏美、同・勝村博己、理事(会長)・山田雅昭、同(副会長)・大田祐介、同(同)・村井仁、同・永津信吉、同・新山まゆみ、同・福永やす子、同・森本寛、同・近藤道明、監事・菊間秀樹、事務局・西部伸也)

懇親会 16:30~17:30 同ホテル 14 名 (原田、松井、後藤、尾道、豊田、勝村、山田、大田、村井、永津、新山、福永、菊間、西部)

5月14日(土)、例年のようにホテルチュールヒ東方2001において当連盟の今年度定時総会が開催されました。冒頭、本年1月10日に逝去された亀井且博

副会長のご冥福を祈り出席者全員で黙とうを捧げました。

出席者は各所属団体代表8名・個人会員3名(うち1名は団体代表も兼ねる)・団体代表以外の理事9名・監事1名・事務局1名の計21名で、委任状も含めて出席者の議決権個数は250分の229でしたので、総会は十分に成立しました。

一昨年・昨年はコロナ対策の時間短縮のため、前年度事業報告は資料でもって代えたところでしたが、今年は昨年度事業報告についても各部の代表から報告をしていただきました。ただ、コロナによる事業中止が多く、寂しい報告になったのは否めません。

目新しいこととしては、連盟のホームページが本年4月に全面刷新されたこと、今年8月の国体中国ブロック大会が本県主管であるため中国地区岳連連絡協議会が3月に本県主管のZoom会議で開催されたことが事務局から報告されました。

指導部担当の各種研修会・講習会についてはほとんどが中止となりましたが、登山教室・クライミングスクールについては7割前後を実施することができました。

普及部も自然保護研修会や山の日の集い、登山フェスティバルが中止、県民ハイキングは1回のみ(12月宮島)の実施でしたが、水質検査は実施されました。

競技部では昨年も国体(三重県)が中止になってしまいましたが、各種コンペに選手の派遣は続けています。また、今年度のブロック大会開催に備え、スポーツクライミングブロック別研修会を3月に本県で開催しました(広島県21名・他県12名が参加)。

国際部については、国際交流も担うスカイランのほか、亀井副会長の逝去により3月に予定されていたセミナーも中止になりました。そして80周年記念海外トレッキングについても計画を再検討せざるを得ない状況となっています。

県東部からは、県東部3団体合同登山のほか、溝手弁護士を講師に迎えてZoomで安全登山研修会を開催したことが報告されました。

高体連部からは、コロナでテント泊ができない中、苦勞しながらの大会運営となっていることが報告されました。また、3年前から実施されている各校登山部顧問対象の安全登山講習会/研修会は、当連盟からの講師派遣により昨年も実施されました。

続けて昨年度決算報告では、諸行事の中止による収入の減少、また一昨年の持続化給付金等のような支援がない中、昨年度末の連盟正味財産が前年度より58万円近く減少したことが報告されました。減少幅は以前のように100万円前後ということはありませんでしたが。

今年度事業計画では、おおまかな事業方針は登山とスポーツクライミングの両立というJMSCA（日本山岳・スポーツクライミング協会）の方針を従来通り踏襲し、個別の重点項目としては昨年度同様、創立80周年事業（記念誌発行）の遂行・県民ハイキングの実施・スポーツクライミングの強化/PR・安定した財政基盤の確立・良識的なコロナ対応・山岳共済への加入促進を掲げています。事業計画の詳細については、村井副会長作成の一覧表のとおりです。

今年度予算案では、記念誌発行が今年度にずれ込んだこと、ホームページの全面刷新のための支出があることから、約130万円の赤字予算となっていますが、異議なく承認されました。

最後に、役員変更として加登本仁さん（個人会員）が新たに理事に加わることが承認されました。加登本さんは元高体連に所属する高校登山部員でしたが、これまでも韓国大邱連盟との交流事業でいろいろと尽力をいただいております。

なお、閉会后、総会資料に添付されていた「遭難対策委員会規定」の説明が指導部の森本理事からありま

した。

総会終了後の懇親会は、コロナのため一昨年・昨年と中止になっていましたが、今年は3年振りに実施され、例年のように最後は出席者全員のスピーチを頂き、楽しい会となりました。



総会の様子（山田会長が司会）



懇親会の様子（料理は各自用の弁当で）

2. 第29回比婆山国際スカイラン報告

（事務局 西部 伸也）

コロナで2年間中止となっていた比婆山国際スカイラン（一昨年5月予定の28回大会はコロナで中止、昨年の29回大会は秋開催で模索されていたものの、次年度大会の準備と重なることから今年に延期）が5月29日（日）に3年振りに開催されました。

参加選手は332名と以前の4割、参加役員（連盟会員）は160名と8割というところでしたが、天気にも

恵まれて無事大会は終了しました。昨年の秋から毎月会合を重ねて準備を進めてきた杉本さん他実行委員の皆さん、準備や当日の運営で尽力された連盟会員の皆さん、大変ご苦勞様でした。大会当日の片付けでは体育館のフロアにまとめておくだけだった荷物も 6/4 の日にすべてロフトに運び上げて後片付けを完了しました。

大会の前日準備の晩に開催予定だった登山フェスティバルはコロナの落ち着きがなかなか見えないことから中止となりましたが、来年からは登山フェスティバル共々復活することを願っています。

また、韓国大邱連盟からの選手団招待も今年はまだ復活できませんでしたが、ちょうど今大会の招待選手と夕食中に大邱連盟会長夫人のチェ ジニさんからメッセージや電話での連絡もありました。これまた来年以降の交流復活が待ち望まれます。

最後に今大会の成績優秀者を掲載しておきます。

A コース男子

- 1 位 武村 佳尚 (香川県) 1 時間 47 分 35 秒
- 2 位 東 徹 (大和走友会) 1 時間 47 分 51 秒
- 3 位 伊藤 吉洋 (トップギア) 1 時間 53 分 01 秒

A コース女子

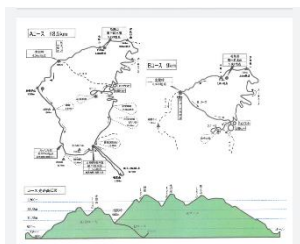
- 1 位 坂根 美保 (広島市南区) 2 時間 26 分 03 秒
- 2 位 宮尾 祐子 (広島市安佐南区) 2 時間 30 分 05 秒
- 3 位 川地 里佳 (広島市安佐南区) 2 時間 31 分 06 秒

B コース男子

- 1 位 新見 雅志 (トップギア広島) 44 分 36 秒
- 2 位 高前 直幸 (F.K.C) 48 分 00 秒
- 3 位 堅田 真一 (カタゲトレイル) 55 分 18 秒

B コース女子

- 1 位 権丈 若葉 (HSC) 1 時間 03 分 11 秒
- 2 位 埜 恵美里 (広島市安佐南区) 1 時間 12 分 29 秒
- 3 位 土居 有由美 (福山市) 1 時間 13 分 54 秒



募集要項表紙とコース図



5/28 前日準備の開始



翌日の選手控所となる体育館内



5/29 朝の駐車場誘導



選手受付



ゴール風景 (Bコース女子トップ)



開会式



表彰式 (Aコース男子)



Aコーススタート



当日後片付けも終了

3. 登山教室報告

(指導部長 森本 寛)

第 2 回 5/20(金)～22(日)

登山形態：ベース型テント泊山行

山城：二ツ岳・赤石山

人数：8 名 (スタッフ含)

今期のメンバーでは初めての県外登山となりました。仮眠後の登山の経験と岩稜帯の歩行練習を行いました。岩が良く乾いていたのであまり巻かずに縦走できました。(森本)

(感想文)

『2022.5.21(土)～22(日) 二ツ岳・東西赤石山縦走(岩稜)』 (登山教室 2 年 島本 章生)

☆5月21日(一日目) 二ツ岳

前日の21:30に小谷SAに参加者8名が集集合してから、西赤石山の日浦登山口まで約3時間半かけて行き、その駐車場で仮眠を取り、その後、二ツ岳の肉漕登山口に移動し、6:45から登り始めました。

天気は、曇りで、風があり、5月にしては少々肌寒く感じました。1時間半くらい歩いたところに峨蔵越ポイントがあり、さらに登っていくと、岩稜が現れます。赤紫色のアケボノツツジやシャクナゲにときおり癒されます。それから、二ツ岳山頂までの中間点に「鯛の頭」と名付けられた岩があり、それを全員が足場を確保しつつ、岩の突起を探しつかみながら上がりました。「ヒヤッ」とした個所もありました。手と足の三点の確保が安定のために重要であることを教わりました。二ツ岳頂上は、霧が濃く、見晴らしは今一つでした。しかし、身に受ける風が冷たくも心地よく感じました。この日、合計7時間、7キロと長くないものの、寝不足や緊張感があり、急登も続き、決して楽ではありませんでした。

下山後、ゆらぎの里キャンプ場に向かいました。同テント場は清潔で、側に車が置ける点でも便利でした。本館の風呂(有料)にも入れます。夕食は、皆それぞれで、誰が何を食べるのか興味津々でした。しっかり栄養を補給し、早めに就寝して翌日に備えました。

☆5月22日(二日目) 東・西赤石山

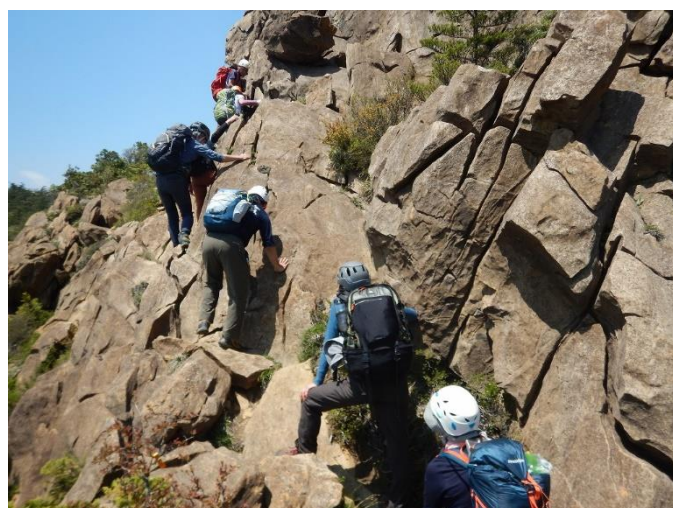
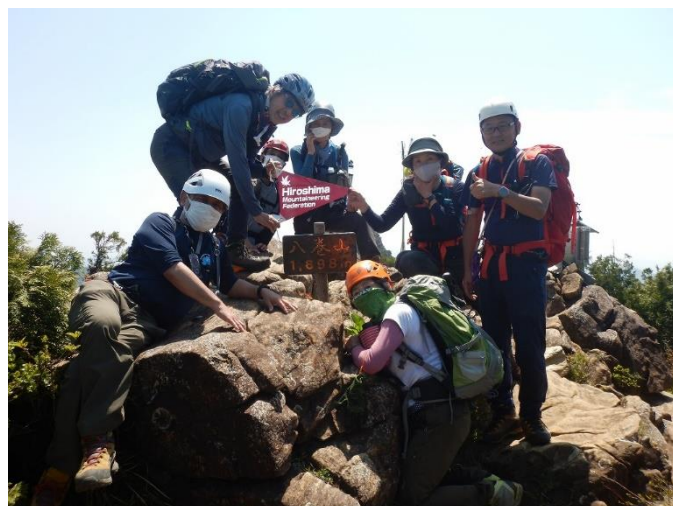
朝、3時に起床し、筏津登山口を5時30分にスタ

ートしました。東赤石山から西赤石山への縦走です。天気は快晴で最高の登山日和。徒渉点からかんらん岩の道の登り坂が続き、歩きにくく、赤石越から物住頭の間は、まさしく岩、岩、岩で、滑落すれば命の危険のある個所も多く、足場を確認しながら、岩を掴み、用心して歩きました。このようなコースを一人で歩くには不安に感じることでしょう。ミツバ・アケボノツツジの花はまだ残り、登山道端に咲く可愛いスマレを踏まないように歩きました。銅山越を過ぎてからは、銅の製錬所や学校、劇場らの跡を見ることができました。別子銅山は、1691年に開坑し、1973年に閉山されました。坑道は、700キロメートルにも及びその深さは海拔1キロメートルもあったそうです。この銅山開発跡をより楽しみたいなら東平を通るコースがいいようです。

東・西赤石山を15キロ、11時間かけての縦走。このコースは、歩いて進むほどに景色は変わり、とても魅力的でした。この二日間のコースを選択し、段取り且つご指導下さったスタッフと、同行者の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

(写真提供 森本)





4. クライミングスクール報告

(指導部長 森本 寛)

第2回 5/15(日)

山城：三倉岳 ABC フェース周辺

人数：22名 (スタッフ含)

三倉岳 ABC フェース周辺

じゃじゃ丸.8 ポン太.6 ゴン太.7 旧Aフェースノーマル.7 Bフェースノーマル.9をトップロープ
松下さん終了点でトップロープ支点を構築しラッペル一時停止

ロープの束ね方、携行の仕方の講習を行いました。

(指導部 塩田 徹)

(感想文)

(受講生 小玉 靖視)

去年は大きなホールドでいい持ち手、確実な足場があれば安心して登れましたが、それ以外は足がよ



く滑っていたのです。一本登るだけでも手が大変疲れて大変でした。

今年は小さなホールドでも靴底と壁の接触面積が大きくなるように、足の置き場を考えて足に体重を乗せるようにして登って行くと、少し進歩したのか今までよりも少し足が滑らなくなったので、少し心に余裕が出てきた気がします。まだまだですが、足に体重を乗せて上半身の力を使うのを少しずつ少なく出来たら、各課題を登る度に疲れるのが少しでも減るといいのですが。

それと今回クライミングのクリップ方法を教えてもらいました。今まではロープをぬいて上がっていただけなので、自分でロープをカラビナへクリップする練習をしてみて、ロープをクリップする方のカラビナのゲートが進行方向と逆側を向くように注意してかけなくてはならないとか、クリップの向きを間違えたら事故につながる事なのでロープ通しを左右の手で確実にしなくてはならないとかがわかり、ロープワークを覚えたように、これは家で出来るので週2～3回練習していこうと思います。

無理をしないで、出来そうな課題は確実に登れるように頑張りたいです。

これからもご迷惑をお掛けしますが、よろしくお願いいたします。

(感想文)

(受講生 島本 章生)

クライミングスクール第二回が行われました。

今回は、三倉岳六合目のあたりの、ポン太、ゴン太、じゃじゃ丸、旧 A フェースと B フェースノーマルと言われる岩壁が場所となりました。壁ごとにユニークな名前がついていて、壁を開拓した方が名前を付けられるようです。

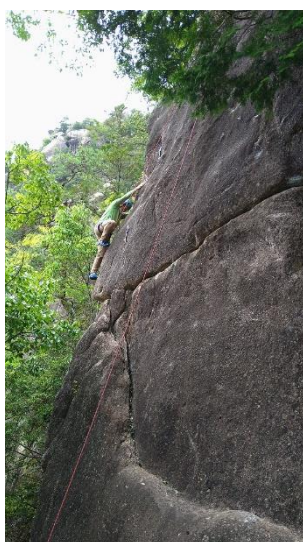
この度の研修テーマは、各壁のクライミング・ビレイ及び懸垂下降(ラッペル)における支点構築、下降、止まり、ロープのたたみでした。

私は、前回のクライミングで脇を痛め、不安を抱きながらの参加となりました。初心者らしく最初の二本で、指を切り、足を打つなど、負傷のスターとなりました。

まだ要領が掴めず怖さも抜けず、皆さんのようには上手に登れません。ただ、最後のノーマル壁で上まで行けたことは、簡単といわれる壁とは言え、嬉しかったです。

懸垂下降もとても勉強になりました。まず、樹の幹の高めの位置にガースヒッチでスリングを巻き、セルフを取り、次に口を別に向けた二つのカラビナにロープの中間を通し、ビレイ器に設置します。ロープは、抜け防止のために端にコブを作り、中間を探すためにセルフをとったスリングにロープを手繰り寄せます。そして、下降時は、特に手の位置が重要で、途中止まるときは脚に2回から3回ロープを巻きます。降りたら、声をかけ、先端のコブをほどもき、ロープを抜き、素早くたたみます。

この度も有意義なクライミング研修となりました。これも熱心で親切にご指導していただいたインストラクターの皆様のお陰です。ありがとうございました。



(前頁写真提供 塩田)

5. ありんこチーム活動報告

(顧問・個人会員 岡谷 良信)

【感想文】

『ありんこチーム 5 月例会 赤石山系テント泊縦走』

(個人会員&ありんこチーム 井上 ゆみ)

5/14~15 赤石山系の岩稜歩きを目的としたテント泊縦走、参加者 8 名。

14 日 7:00 広島空港車 2 台で出発~11:15 (日浦登山口へ車をデポ) 筏津登山口から出発。15:55 赤石山荘着。テント設営。16:50 八巻山へ。18:00~テント場で夕食~就寝。

15 日 起床~6:00 テント場出発~6:13 八巻山~8:35 前赤石山~10:37 物住頭~11:26 西赤石山~14:10 日浦登山口着~別子温泉~夕食~広島空港、帰路へ。

今回の例会では、アケボノツツジと高山植物で名高い岩峰、四国アルプスとも称される歩きごたえのある赤石山系をテント泊縦走しました。

前日の雨で増水し迫力ある滝、蛍光黄緑の眩しい新緑やアケボノツツジ、シャクナゲ、ミツバツツジなど優しいピンク色や鮮やかな春色に彩られたもふもふの山肌、花びらの絨毯、岩に着いている不思議な模様、美しく荒々しく男前な岩峰、健気に咲くツガザクラ……。私にとっては、見るものすべてに、強く優しく逞しい美しさを感じ、感動の連続でした。

特に印象に残っていることは、夕陽を見にみんなでテント場から八巻山へ登ったこと。岩稜を歩き、アケボノツツジを愛で、絶景ポイントに立つと、その感動は言葉にはならないけど、何かこみあげてくるものがありました。ふと見ると、傾いた陽を浴び、みんなの笑顔もキラッキラ輝き弾けているように見えました。その底抜けに明るく美しい笑顔を見た瞬間、「やっぱり山っていいなあ。」「山の仲間って最高だなあ。」と思いました。

岩稜では、どこからどう見ても、おっかなびっくりで岩にしがみつき顔が青ざめていた私。手が冷たくなり、緊張と恐怖を感じながらも、仲間のおかげで一つ一つ無事に乗り越えることができ、ほっとしました。

距離以上に長く感じた山旅でしたが、無事、下山した時、0 アドバイザーが「よう歩いた。」と労いの言葉と握手を交わしてくださり、私は長い山旅の達成感や喜びを改めて噛みしめました。

下山後、温泉に入り、自分たちの足に青あざが多数あるのを見て N さんと大笑いし、ソフトクリームと海鮮丼に生きてる喜びを感じ、無事帰路に着きました。

私は、職場の行動制限や出張などで、ありんこチームの例会には、ずっと参加できていませんでした。今回、久しぶりに参加できる状況が整い、嬉しくて仕方がなく自分のレベルも大して考えずに参加希望しました。自分の未熟な体力や技術や知識では、到底登れなかった山だったと思います。リーダーやメンバーのおかげで「登りたい山」から「登った山」になり、とても貴重な経験をさせていただきました。一緒に登ってくださった皆さんに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。今回の自分の課題を少しずつ克服できるようトレーニングし、また次の「登りたい山」を目指したいと思います。





6. 雲月山山焼き報告

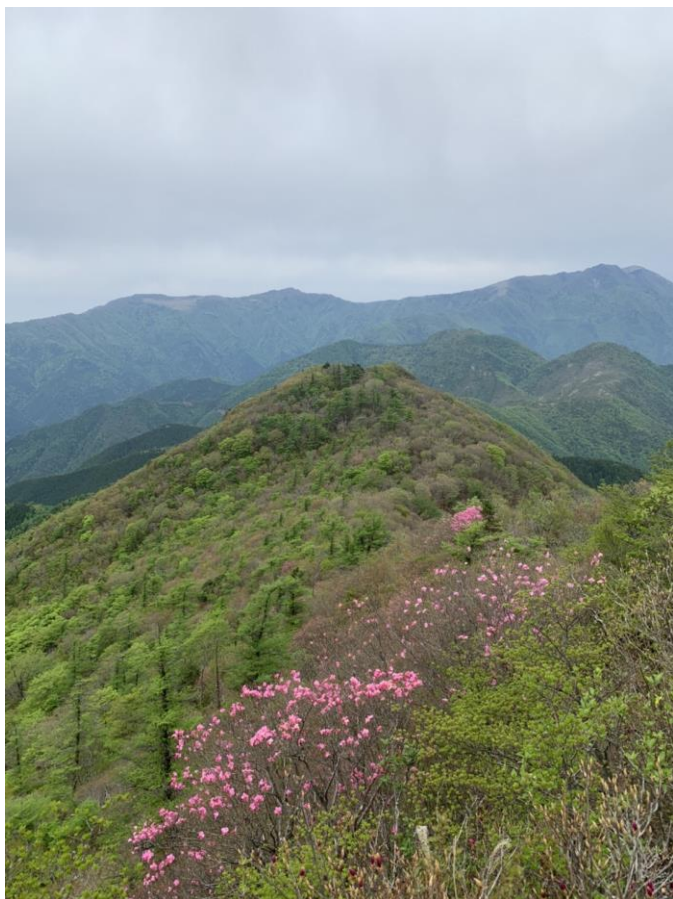
(理事 福永 やす子)

島根県境にある北広島町の雲月山(911m)で2022.4.9春の草花の芽吹きを促す山焼きがあった。新型コロナウイルス禍の影響で3年ぶりの開催。地元住民や県内外のボランティア、消防団員他約170人が参加し約8ヘクタールの斜面を焼いた(中国新聞記載)。現地に9:00迄に集合し各自500円を払い班ごとにゼッケンを付けた。7か所の集落(土橋、奥原、草安、苅谷形、才乙、大利原、南門原)に分かれボランティアが加わり、地元の方の草刈り機で5mの防火帯を我々がレーキで寄せて午前中の作業は終了。

お昼は地元の方のご支援で炊き込みご飯とうどんが無料で振舞われた。午後から消防団も加わって有志は15kgの水を背負い一般は杉の枝を持って消化出来る態勢で班ごとに配置し、上部から火入れを行った。ある程度下方に焼け広がると一面黒く灰化して行き下方からの火入れが進むと忽ち上層へと燃え上がり晴天が続いたので全面が真っ黒になった。

黒い山肌は雨が降ると茶色に変化しショウジョウバカマが開花し6月には山百合も咲くと紹介があり、その後の植物観察のお話があった。

今回は白川氏から「山焼きは植物が枯れただけでは微生物に分解されるけど、山焼きをして炭になると分解されずに土の中に炭素として残る。植物体は空気中のCO₂を固定して出来ているので、山焼きをすることは炭素を貯蔵する(カーボンマイナス)になる。」と



お話があった。以前は北広島町で自然保護委員研修会を開いていた関係で50余名もの参加者がいたが、今回は岳連にお知らせが無く開催を知ったのが2週間前で急遽、問い合わせをして個々で申し込みをしてもらう方法でラインの届く範囲のお知らせとなった。急に決まった事もあり数名の参加者。次回は山頂以降も山焼きの希望があり狩り払いがされていたので出来る限りの若い岳連の有志が参加し、生物多様な草原となるよう希望する。



一部写真は県庁山の会 大下さん提供

(岳連短信 続き)

2. 6月の行事予定

6/16 木 18:30～ スカイラン打ち上げ (横川 白木屋)

6/18～19 山岳レスキュー(無積雪期)研修会 (比婆山)

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい

7. 岳連短信

1. 寄贈御礼

5/21 三原山の会『筆影』No. 507 (6月号)

5/24 福山山岳会『会報』6月号

広島山稜会『峠通信』第756号(6月)

広島やまびこ会『やまびこ』789・790

広島山岳会『山嶺』第882号(5月)